白石小学校だより

山口市立白石小学校
第　９　号
２０２０.１.８発行

あけましておめでとうございます。

令和２年が始まりました。今日から夜明けも少しずつ早くなり、春が近づいてきますが、一年で、一番寒さの厳しい時季になります。１月８日の始業式では、三つの「そろえる」の話をしました。

よい習慣を身につけること＝面倒さとうまく付き合うこと

三つの「そろえる」は

一つ　はきものをそろえる　　玄関の下足箱のかかとはよく、そろっています。
一つ　いすをそろえる　　ちょっと席から離れるとき、いすをいれる。
一つ　日課をそろえる　　翌日の準備をすることは社会生活の基盤です。

あたりまえかもしれませんし、何でもないことかもしれません。でも大切な気がします。

子どもたちのそうじの様子はさまざまですが、一生懸命にそうじができる子どもがとても多いです。この時季水道の水は本当に冷たく、ぞうきんを洗って絞る、を繰り返していると、手もかじかんできます。

でも、そんな中もくもくとふきそうじができる子どもがたくさんいます。

本当にうれしい場面であり、教員として身の引きしまる場面です。

一心に磨く

数年前、曹洞宗 総持寺の大童法慧（山口県出身）さんとお話しする機会に恵まれました。その中で朝の掃除についての話題になったとき、夜明け前から何十人もの修行僧が

「朝、真っ暗な中で床を磨く、一生懸命磨く、みんな自分自身の心にある『面倒くさいな』『やりたくないなぁ』『何でこんなことを･･･』というような気持ちは持っている。その気持ちを毎日、繰り返し、繰り返し、ふきとっているんです。掃いているんです…。」

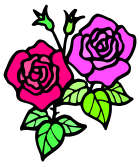
と、お話いただきました。その語り口調と魅力あるお人柄がとても印象的でした。

ややもすれば面倒くさいと感じる習慣・掃除ですが、子どもたちに

「面倒なこととうまく付き合うこと」「よい習慣をつけてやること」

これらは子どもたちが将来、幸せに生きていく力、幸せを築いていく力の一つになると思っています。私たち大人が がんばって！踏ん張って！ 子どもたちに見せたい姿でもあります。

年頭にあたり「よい習慣を身につけ」「そうじができる」子どもたちに、教職員になっていきたいなと思います。



しばらくは寒さも厳しく、インフルエンザ等も流行ります。寒さとも、うまく付き合いつつ、ぜひ冬の体調と健康の管理にお努めくださいませ。

校　長　藤　永　靖　彦